

# 46年災害

# 台風

## 消防署



大総地区で発生した土砂くずれ

### 機動力の低下

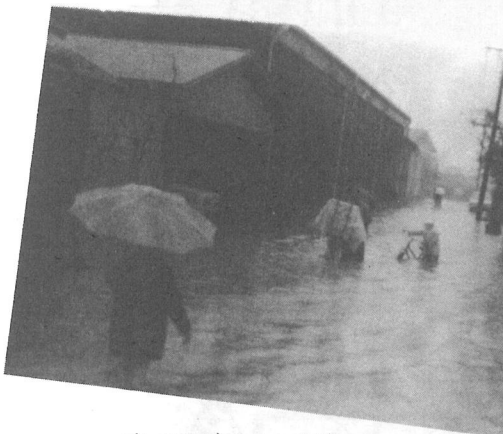
時計の針が8日になり始めた頃から、市街地を中心に、国道126号線すら水をかぶり、消防車の通行に支障を来してきた。そのほかの幹線道路も、土砂くずれ、倒木、陥没があらゆる箇所が発生。道路は川となり、低地は湖沼、市街地は白濁と化してしまった。50cm以上水をかぶった道路で

は、消防車・救急車も走行不能となり、機動力も半減してしまった。しかしながら災害の発生はなおも続いた。そのほか地域によっては、電話の不通と浸水により部落が完全に孤立し、救援のメドが全く立たない。部落内にて自給自足、自衛策に頼ること数日間。人命の救出、負傷者の手当も部落民で実施せざるを得なかった。

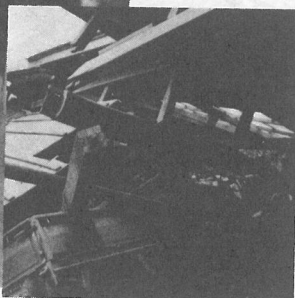
### 極度の疲労

一方、隊員は、皆豪雨と強風による冷寒に曝され、身体中が冷えきり、ガタガタとふるえながら出場、出場回数は何と97件に上った。

8日の朝方になって雨も小降りとなり、災害の発生も下火となってきた。6時30分、女子職員の炊き出しで隊員は交代で非常食の握り飯を口に



すべてがマヒした街 (八日市場市内)



押しつぶされた家

含んだ。空も穢やかになった。無気味な静けさである。あたり一面異様な光景が目飛び込んできた。水浸しの街、土砂に埋もれた家、陥没した道路……その静けさを打ち破るかのように消防車だけが走り抜ける。河川氾濫現場、浸水現場、飲料水供給など。隊員は誰も目がくぼみ、疲労の色が隠せない。消防職団員の大半は、48時間不眠不休、なかには96時間の激務となり、過労と睡眠不足により誰もが疲れきった激戦であった。消防職員の延べ出場人員478人、救出した被災者16人。しかし、公設消防機関の手の届いたところは、被災地の半分にも満たない。道路障害、通信障害等により、災害時における公設機関の無力さを正に痛感した。消防隊員の自宅の罹災も少なくなかった。

### 被害(消防組合管内)

死者	6人
負傷者	12人
住家被害	7,000戸以上
土砂くずれ	500箇所以上
被害総額	8億円以上